

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書④

岐阜県立池田高等学校

学校番号	20
------	----

I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「向学・友愛・錬磨」の下、明るく規律ある学校生活を通して、「知・徳・体」の調和のとれた人間性豊かな、心身ともに健全な人間形成を期すとともに、持続可能な社会の発展に貢献できる人間の育成に努める。	
2 評価する領域・分野	◇生徒部（生徒指導、教育相談、特別活動含む）	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> • 生徒指導分野「本校では、いじめや差別を許さず、厳しく対応している。」について生徒は77.1%の支持をしている。対して保護者は59.7%と支持が低めであるため、通信やホームページなどで実践の報告をしていかなければならない。 • 安全指導分野「本校では、地震や台風等の場合の対応についての対策マニュアルを示し、説明している。」について生徒からは86.3%、保護者からは89.2%と高い支持を得ている。 • 学校行事分野「本校では、ボランティア活動の大切さを教える同時にその機会を提供している。」について生徒は83.1%の支持をしている。対して保護者は65.7%と評価が下がるため、ボランティア活動の募集について、保護者も知る形にすることが必要である。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	生徒の自己指導能・規範意識を向上させることで安心安全な環境を整備し、挑戦を核とした学校文化を醸成します。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	生徒部会、企画委員会、各学年会、職員会議、各種委員会などを通じて、全職員の共通理解を図る。 生徒指導委員会、特活指導委員会、学校保健安全委員会、人権教育委員会、性教育委員会、特別支援教育員会、防災管理委員会、いじめ防止等対策検討会議	
6 今年度の重点目標に必要な具体的取り組み、方策	①いじめ防止のため、教育相談を充実させ、専門家の助言を活用しながら、チームで丁寧な対応にあたる。 ②地域の諸機関と連携し、より多くの生徒がボランティア活動に参画できるよう、地域の様々なボランティア活動への参加を推進する。 ③非常変災時に備え、学校危機管理マニュアルを現状に合わせて適宜見直し、定期的な訓練を行って、緊急時には生徒、職員が迅速かつ適切な対応をとれるようにする。	
7 達成に向けての取組状況・実践内容等	8 達成度の判断、判定基準・評価指標	9 評価
・問題行動の未然防止、早期対応の徹底のために学年会の協力のもと校内巡視、クラスへの連絡、該当生徒への指導等を行った。 問題行動6件〔R2度：6件〕 いじめの認知6件（内アンケート誤入力2件）いじめ該当事案1件〔R2度：2件〕 ・生徒指導担当者、副担任を中心として、全職員が登校時に挨拶・遅刻指導を実施した。遅刻の回数を重ねる生徒に適宜指導を行った。予鈴に遅刻3回以上になった生徒にはボランティア活動を課すようにした。 ・教育相談、i-check、迷惑調査を通して、気になる生徒や問題を抱えた生徒に早期対応し情報共有した。スクールカウンセラーに繋ぐ必要があると判断した場合は速やかにスクールカウンセリング（スペシャ	①問題行動、いじめの認知件数の増減	A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>

<p>リストサポート事業を含む)を行い、適切なケアをした。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響でボランティア参加機会は多くなかったが、生徒たちは機会を捉えて積極的に参加した。</p> <p>アクアウオーク大垣敷地内の公園の草取りと花壇の手入れ 計5回 のべ53名参加</p> <p>大垣駅周辺清掃活動 計2回 のべ31名参加</p> <p>徳山ダム上流に実のなる木を植えよう大作戦 10名参加</p> <p>神戸町ふれ愛公園清掃活動 17名参加</p>	<p>②各種ボランティア活動への参加状況</p>	<p>A B C D</p>
<p>・マニュアルにおいて防災に関する改定や追加を行い、職員会議や訓練にて確認した。命を守る訓練を感染症の状況に応じた形に工夫して行った。</p> <p>・始業日に緊急連絡メール登録の依頼を行い、現在9割以上の保護者が登録済みである。</p>	<p>③改定した学校危機管理マニュアルに対する学校運営協議会の評価・保護者の緊急連絡メール100%</p>	<p>A B C D</p>
<p>11 成果 ・ 課題</p>	<p>○校則を違反した生徒に対する生徒指導や、校内ルール・マナーを守るための生活指導を適時行い、校内規律を遵守する雰囲気醸成することができた。昨年に比べて遅刻の回数が大幅に減少するなど、基本的な生活習慣を身に付けさせることができた。</p> <p>○平成29年度(財)日本交通管理技術協会から「自転車通学安全モデル校」として推薦を受け、今年度は全日本交通安全協会から「優良校」として表彰される運びとなった。優良校として恥ずかしくない交通マナー向上を呼び掛けた。</p> <p>○文化祭や応援団演舞などの学校行事を新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも工夫して行い、生徒の自己実現の場として残すことができた。</p> <p>▲地域からの要望や苦情として、登下校時の自転車の並列走行や無謀運転など生徒の交通マナー違反等に関してのもの、応援団員の会食時の迷惑行為などが寄せられた。日常的な指導や事前指導を行い予防しなければならない。</p>	<p>総合評価</p> <p>A B C D</p>
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <p>◎情報モラル教育について</p> <p>・スマホのけじめある使い方ができていない生徒がいる。今年度、昼休みや授業中に使用して指導を受けた生徒がいた。今後は違反の程度に応じて段階的に指導するようにし、抑制効果を狙う。</p> <p>・ネットパトロールでの違反はなかったが、SNSでの誹謗中傷という問題行動があり指導をした。また、SNSで匿名者により被害を受けたという相談も数件あり、被害に遭わないように方策を取ることも指導した。</p> <p>・友人関係における悩みの発端にSNSでのコメント内容や、無断ブロックということがあり、デジタル上のマナーの向上の育成が急務である。今年度は12月の人権LHRでデジタルでの人付き合いの仕方ということを考えさせたが、今後定期的にSHRやLHR、集会などで考えさせ、習得させる必要がある。</p>		
<p>学校関係者評価 実施年月日：令和4年1月25日</p>		
<p>○コロナ禍であるが、機会をとらえてボランティア活動への参加が実現され、心の豊かさを深めることができている。生徒のアイデア・発想の中から、今できる事を考え、ボランティアとして実践していく仕組みを作り出してもらいたい。特に、ボランティアの運営や企画に取り組めるとよい。地域から依頼受けるだけではもったいない。こちらから積極的に提案し、企画してみるとよい。</p> <p>○情報モラル指導については、高等学校のみならず、小中学校においても、極めて優先度の高い指導事項である。よって、生徒指導主事間で小中学校における指導の内容や方法を交流することは、高等学校での指導をより充実することにつながる。</p> <p>○いじめは地下に潜ってしまって表面化しない事が多々あるので、注意力が必要である。第3者的立場の専門家の方にいていただくなど、いじめを相談しやすい環境を作ってほしい。</p> <p>○自転車の並列走行は、生徒自らも事故に巻き込まれる危険性が高いことを、繰り返し指導してほしい。</p>		